広幅の綴織織機で緞帳を製造

工場探訪

丹後テクスタイル

手織りに近いモノ作り追求

継続することで時代にマッチ

住江織物グループの丹後テクスタイル（京都府京丹後市）は、住江織物の祖業である手織り緞通（だんつう）の技術を受け継いできた。綴織緞帳（つづれおりどんちょう）、フックガンを使った緞通・緞帳なども製造する。時代に対応しながら手織りに近いモノ作りを続けてきたことが強みになり、多様な緞通・緞帳作りに対応できる希少なメーカーになっている。

「丹後緞通」がブランドに

オンリーワンのモノ作り

丹後テクスタイルが生産するイージーオーダーラグ「イッテン」の売れ行きが堅調だ。フックガンというピストル状の機械でパイルを基布の裏面から打ち付けるフックド・ラグ製法で作られたシリーズで、色数の制限がないことによる繊細で多様な柄を表現できる。

2×2㍍サイズの小売価格が10万円を超えるアッパーゾーンのラグで、2012年の発売後、ハウジングルートや高級家具店を通して住宅向けを中心に販売してきた。ここ数年は高層マンションの共用部や、ブティックの試着室などコントラクト用途にも採用が広がる。

同社は、フックド・ラグ製法で製造したカーペットを「丹後緞通」として打ち出す。フックド・ラグの自動織機14台を保有して生産する一方、フックガンを100台以上持ち、職人によるハンドフックを行う。自動織機では、30×30㌢角に最大で約4千粒を打ち込むのが限度だが、熟練職人によるハンドフックでは、打ち込むスピードを調整することで同2万粒が打ち込め、よりきめ細かな表現ができる。ハンドフックに携わるスタッフは約半年間、均等な間隔で直線的に打ち込む練習を繰り返し、その後、比較的容易なフックド・ラグから担当して腕を磨く。

フックド・ラグは、色数の制限がないことに加えて、レーヨンやナイロン、シルクなど多様な糸を使える。カーペットの形状も自由で、「オンリーワンの商品が作れる」（糸井義知代表取締役）と強調する。単品・大量消費が変化してニーズが多様化する中で、デザインや形状の自由度が高く多品種・少量生産が可能な同社の丹後緞通が支持を受ける。付加価値が評価され、海外ブランドの店舗でも採用が増えている。

フックガンを使って基布にパイルを打ち付け

経験が求められるハンドフック

フックド・ラグ自動織機

手織り緞通からスタート

フックガンで時代に対応

同社は、住江織物の手織り緞通の製造を担う網野工場として1947年に設立された。1883年創業の住江織物は、手織りの敷物作りから事業を始めており、同社は祖業を担う形になった。1968年に皇居内殿舎の豊明殿の手織り緞通（約836平方㍍）や、2019年に迎賓館赤坂離宮の手織り緞通（約97・5平方㍍）など名だたる施設で使われる敷物を担ってきた。

迎賓館赤坂離宮の手織り緞通は1年半かけて納品したという。手織り緞通の需要は特別な場所に使われることが多く、さらに高度経済成長期で建築スピードが上がる中で対応力に難しさがあった。そのため、1963年に手織り緞通の持つ表現や風合いを残しながら、製造日数の大幅な短縮を可能にしたフックガンによる丹後緞通の生産を始めた。京都迎賓館や衆議院にも丹後緞通を納入するなど評価は高い。89年にはフックド・ラグ自動織機を増設し、商品によってハンドフックと使い分けている。糸の綛（かせ）染めや製織前のワインダーも内製化して対応力を高めている。

イージーオーダーラグ「ittten（イッテン）」シリーズ

綴織緞帳も柱に

手織りで表現高める

58年に住江織物の京都工場から緞帳部門を移設して綴織緞帳の生産を始め、現在も続ける。

33㍍幅と、25㍍幅の綴織織機2台があり、1年におよそ1枚のペースで国立劇場や大阪歌舞伎座などの緞帳を受注している。手織り緞通は完成まで長くて1年ほどかかるが、多い時は千色ほどの糸を用いて手作業で作るため、細やかな表現ができる。緞通と同じくフックガンを使った緞帳作りも行っている。

手織りの緞帳・緞通、ハンドフック、自動フックが全てできるメーカーは同社1社のみという。手織りに近いモノ作りを広げてきたことが同社の価値を高めている。

技術継承に力

ふるさと返礼品へも

同社の従業員は61人。ここ数年、毎年新入社員を採用する。2023年は男性2人、女性2人が入社した。08年のリーマン・ショックなどで経営が厳しい時期があり、中間層の従業員が少ないとし、技術継承や機械整備スタッフの育成に力を入れる。

技術継承では、手織り緞通が特に課題に挙がる。需要自体が少なく、「練習だけでは身に付かないことも多い」と言う。仕事を作るため、50×80㌢の手織り緞通をふるさと納税返礼品にできないか、京丹後市と協議している。

柔軟に、そして粘り強く、これからも継続していく。

※この記事は『繊維ニュース』を発行するダイセンの転載許可を受けています